

団体名	青森中央学院大学						
事業名	Aomori Global Kids Project						
実施期間	平成30年6月1日～平成31年1月31日						
場 所	青森市内の小学校						
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ 大学関係者	その他 (来場者等)	合計
	22			458	15		495名

<実施内容>

青森市内の小学1・2年生を対象に、外国語学習前の児童が体験的に留学生の母国語や英語に触れ、英語が欧米などの英語圏だけでなく世界の多様な国籍の人々と交流するための共通言語であることを体験的に知る機会を提供するプログラムを実施しました。実施期間中、合計12回の講座を行い、児童、保護者、小学校教員を含め457名の地域住民と交流する機会を得、大きな手応えを感じました。プログラムの内容は、学習指導要領や児童の発達段階に合わせ、双方向でのコミュニケーションを楽しみと感じるよう工夫しました。

<プログラム具体例(小学2年生:「みんながしてるえいごがあるんだよ」)>

ねらい:留学生の母国語を聞き、普段日本語として使っている英語があることに気付く。

学習のゴール:カタカナで習う言葉の多くが英語に由来していることに気付き、他の言語と比較して英語が身近にあることに気付く。留学生と直接交流し、「コミュニケーションは楽しい」と感じる。

内容:①果物やスポーツの絵カードを用意し、留学生は母国語で言い、児童が絵を選び、英語で答えあわせをし、日本語で確かめる。②簡単な絵本を最初は留学生の母国語で読み聞かせし、続けて英語で聞かせる。

保護者参観でも取り上げてくださった小学校もあったため、保護者にも留学生を生きた教材として活用した授業を観ていただくことができました。グローバル人材育成のみならず、留学生の地域社会との結び付きを促進する事業となりました。

<記録写真>



小学校での様子①



小学校での様子②



小学校での様子③

<参加者からのコメント>

クリントン ウィージャンションさん(マレーシア)/Clinton Wee Jian Xiong, Malaysia Y.N.さん(日本)/Y.N. Japan

この活動を通して私は母国に対する理解がもっと深くなりました。母国の食べ物や観光地、文化を紹介すると、子どもたちはとても興味を持ってくれて、それを見て私も積極的に交流することができました。子どもたちにとっても、教科書で読むより、実際に外国の友達から海外の生活について聞く方が楽しく勉強できますし、グローバルな視野が広がります。また、外国人と交流することに怯えないようになります。子どもたちは、私と交流するためお互いに言語やジェスチャーが必要だと気が付いたようでした。だから私もどうすれば彼らが喜ぶのかわかるようになりました。このような活動をたくさんすることは大事だと思います。

わたしは、はじめてりゅうがくせいさんに会って、とてもドキドキしました。マレーシアから来たりゅうがくせいのカンさんのところは、いろいろなたてものがたくさんあったし、ベトナムからのりゅうがくせいのチーさんのところでは、ふくがかわいかったです。さいごにあいさつの紙をもらって読んだら、まほうのことばみたいで、すごいと思いました。カンさん、やさしく教えてくれてテリマカシ。チーさんいろいろベトナムの食べものを教えてくれてカムオン。いつかカンさんとチーさんの国へ行ってみたいです。